

令和6年度 学校関係者評価書（都城市立姫城中学校）

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目		評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等	評価 委員 評価	学校関係者評価委員の意見
			評価	総合評価			
1 知（確かな学力の育成）	(1)	「分かる、できる」を実感できる授業実践：① ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.3	3.1	○ ICTを活用して、いろいろな手法で授業を行う教師が増えた。 ○ 生徒が主体的に取り組む授業を意識する教師が増えた。 ○ 相互参観授業を実施し、日々研鑽に取り組んでいる。 ○ 道徳の授業については、学級担任だけでなく、副担任も輪番制で授業を行い、生徒からも概ね好評である。 ● 習熟度の低い生徒への対応が課題である。授業スタイルの変化で、習熟・定着の時間の確保についても検討が必要である。 ◇ 「ひなたの学び」の推進と「わさびの授業」の意識的な実践をする。	3.6	○生徒の95%が「積極的に授業に取り組むことができた」と回答しており、主体的に授業に取り組めたことが表れている。ただし、職員の視点としては、次の課題も見えて来ているような評価だと感じた。 ○登校指導中に生徒と話す中で、勉強で分からない点は放課後等に先生に聞くよう促している。
	(2)	効果的にICTを活用した授業実践：② ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.3		○ 文部科学省指定のリーディングDXスクール事業の取組により、授業においてICTを効果的に活用する教師が増えた。 ○ 生徒のICTの活用スキルは確実に高くなっている。 ● 活用は推進されているが、学力低下も懸念される。 ● ICTを苦手と感じている職員もいるので、ICTの使用法に関する研修を継続する必要がある。 ◇ ICTを活用した効果的な授業を実施する。 ◇ キュビナを授業で活用する。		○IT知識があつてこそそのICTだと思いますので、先生方のITへの興味・スキルアップの時間が普段から取られているのが気になる。 ○生徒の98%が、「授業においてパソコンを活用できた」と回答。ICT機器の操作や調べるためのツールとして大いに活用できているのではないかと。 ○職員同士の教え合える関係作りにも役立っているのではないかと。ただ、情報の真偽を確認する必要性やICT以外の調べるツールの調べ方なども必要なのではないかと。
	(3)	家庭学習の充実：③ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	2.7		● 家庭により家庭学習の取組の差が大き出ている。 ● 家庭学習の習慣がついていないため、課題を出しても提出しない生徒が多い。 ● 家庭学習の時間が確保されていない。課題等の出し方も工夫が必要である。 ◇ ICTを活用した家庭学習課題の提示方法の工夫をする。 ◇ 学習に対して、生徒が自ら学ぶとする意識を高める。		○部活後、自宅に帰ってから就寝するまでにどのくらいの時間があつて、どのような使い方をしているのかを調査した上で、どの程度の家庭学習の課題を出せばいいか検討してみてはどうか。 ○生徒の66%は「家庭学習を計画的に行い、時間を確保することができた。」と回答。保護者や職員も約半数に評価が割れている。 ○生徒の自ら学ぶとする「やる気スイッチ」は恐らく十人十色であり、家庭と学校の更なる連携も求められる部分なのではないかと。
	(4)	キャリア教育の見直し：④ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.0		○ HLTの時間のキャリア教育の充実により、生徒が将来の事について考える機会が増えた。 ● 進路に関する情報を様々な方法でもっと家庭に発信し、興味関心をもたせ、考えさせるための工夫が必要である。 ○ 外部講師との連携もうまくいっており、今後も継続してキャリア教育に取り組んでいきたい。 ◇ 進路に関する情報の発信をしていく。		○生徒の77%は「中学校卒業後の進路について、日頃から考えている」と回答。保護者からも73%が「将来のことを話し合っている」と回答している。いずれも昨年を上回り、保護者に至っては約2倍が話し合っていると回答している。キャリア教育の取組が評価されているのでは。 ○令和2年から始まった姫城中の職業講話も恒例となっており、これまで対象学年や講話の方法など変更を繰り返し、先生方も忙しい中、毎年事前協議のもとに進めていけることに感謝している。内容については硬直化することなく柔軟に対応するので、今後も学校と協力しながら進めていければと思うている。 ○進路の情報に関して、令和7年度も中学生以上を対象とした「みやこんJOBフェスタ」を6月に開催予定であるので、是非とも周知していただき、保護者同伴で参加してほしいと思っている。
2 徳（心の教育の充実）	(1)	基本的な生活態度の確立：⑤⑥ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.3	3.3	○ 陸上部や生徒会の朝のボランティア活動の効果で、あいさつに対する意識が高まっている。 ○ 礼儀を意識し、さわやかにあいさつができる生徒が多い。 ● 清掃活動については概ね良好であるが、生徒の取組に差がある。 ◇ 生徒会とも連携しながら学校全体で意識を高めていく。	3.5	○あいさつは、生徒の93%は「できている」と回答。保護者や職員の評価も80%後半と高い。清掃等については生徒は88%、職員は79%と高い評価だが、家庭での評価は64%となっており、学校以外の評価も気になる。 ○校内ですれ違った時に、生徒が必ずあいさつをしてくれて、気持ちが良い。
	(2)	いじめ防止対策・不登校生徒への対応：⑦ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.7		○ 計画的な教育相談といじめアンケートを実施できた。 ○ 毎月のいじめアンケート等を用いて、問題が小さいうちに対応することができている。 ○ 命の大切さを伝える活動とSOSの出し方教育を充実させ、生徒会も動かしながら全校生徒で取り組むことができた。 ● 冷やかし、からかい等、心ない発言がいくつかあり指導した。 ◇ 計画的な教育相談といじめアンケートの実施して、いじめ防止と早期発見・早期解決に努める。		○生徒の91%は「アンケートや教育相談で自分の悩みや考えを話すことができた」と回答。職員も92%が「積極的に解決に努めることができた」と評価していることから、自信の表れだと感じた。 ○いじめ等は早期に発見して解決することが重要なので、これからも計画的にアンケートを実施してほしい。 ○アンケートにも本当の気持ちを書けない生徒がいるかもしれないという視点ももって取り組んでほしい（多分、そうされているとは思うが）。
	(3)	思いやりの心の育成：⑧⑨ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.7		○ 思いやりの気持ちを大切にできる生徒が増えている。 ○ 生徒会による定期的な啓発活動が実践できた。 ● 自分の言動で相手を傷つけていることに気付いていない生徒がいる。言葉遣いに関する指導も必要である。 ◇ コミュニケーション力を高める指導の充実を図る。 ◇ 全職員による心の教育の充実や道徳の実践をしていく。		○「情報はデジタル。人間関係はアナログに。」が大切で、実践できていると思います。 ○生徒の91%は「思いやる言動を意識し、学校生活を送ることができた」と回答。保護者や職員も90%を上回っている。また、感謝の気持ちに関しても非常に高い評価である。ただ、相手が傷つく言動をしたことに気づいていない生徒もいたとのことで、言葉の選び方を学ぶ必要もあるのではないかと。
	(4)	豊かな心を育む読書活動の推進：⑩ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	2.3		○ 図書館サポーターの方による積極的な環境整備が行われ、生徒が読書に親しみやすい環境ができている。 ● 生徒が学校や家庭で読書をする機会が減っているように感じる。 ● よく読書をする生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ◇ ビブリオバトルを実施して読書の啓発を図る。 ◇ 積極的に図書室を利用するよう具体的方策を考える。		○学校における読書のための時間の確保が難しいことは察することができる。 ○日常的な読書週間については全体的に低い評価。図書室の（紙の）本を読むことが、どのように豊かな心を育むことにつながるのか、理解を得ることも必要なのではないかと。 ○学年毎に読書の時間を設定するのがよいと思う。
3 体（健康安全と体力の向上）	(1)	交通安全指導や安全点検の徹底：⑪ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	4.0	3.8	○ 定期的な安全点検の実施により、校内の修繕が進んだ。 ○ 全体的には、規範意識は高く、生徒の大きな事故等ではなかった。 ◇ 交通ルール及び交通マナーについて、常時指導をしていく。 ◇ 登下校における見守り・巡回指導を実施する。 ◇ 生徒会も活用して、規範意識をさらに高めていく。	3.7	○生徒の97%は「校則や者会のルール、交通マナーを守れた」と回答。保護者や職員も90%以上が「守る指導ができた」ということで、自信のある指導と成果が表われている。
	(2)	危機管理意識の高揚：⑫ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.7		○ 避難訓練において、避難経路の確認ができ、生徒の防災に対する意識も高まったが、訓練を通して課題も見えた。 ○ 今年度、危機管理マニュアルの大幅な見直しを行い、危機発生時のフローチャートを整備した。 ● チャットによる不適切な書き込みをする事案が発生し、指導した。ガイドラインを整備する必要がある。 ◇ 情報モラルについては、常時指導を継続して行っていく。 ◇ 防災教育と避難訓練を今後も充実させていく。		○アンケート設問では携帯電話やゲームなどを、ルールを守って使用できているかの問いになっており、避難訓練や防災教育などの危機管理意識の高揚や情報モラルの醸成とは離れた設問であるように思える。 ○交通事故の発生がなかったのは、指導がよくなされていたからだと思う。
	(3)	体力向上や健康意識の育成：⑬⑭ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.7		○ 体力向上プランに則って、体力向上を図ることができた。 ○ 各部活動において、計画的に活動ができた。 ● 冬場は体調を崩して欠席する生徒が多いので、感染症対策を強化する必要がある。 ● 給食の残量が多い学級もあり、学級によって差がある。 ◇ 治療が必要な生徒への、個別指導を実施する。 ◇ 部活動休養日の設定を確実にする。		○生徒の94%が「学校では一生懸命運動し、健康や安全に気をつけた生活ができた」と回答し、職員目線でも「子どもの体力向上や健康促進と安全面に積極的に取り組めた」という評価。リフレッシュデイについても94%の生徒が「有意義に過ごせた」と感じている。どのようなことをして過ごしたか聞いてみたい。 ○先生方もリフレッシュデイを有意義に使っている。 ○リフレッシュデイの有効性があるのかが分かるとよい。 ○アレルギー等のある生徒は除き、生徒の成長を考慮したバランスのよい給食は、完食させる指導が重要だと思う。
4 地（家庭・地域との連携）	(1)	家庭と学校の連携の充実：⑮⑯ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.0	3.0	○ 学校便り、学級通信、各種便りを積極的に発行できた。 ○ 学校で何かあった際に、迅速に保護者に連絡を取ることができた。 ● 学校から発出されたプリントを保護者に渡さない生徒がいる。確実に渡すような指導が必要である。 ◇ 各種通信による情報提供をさらに充実させる。 ◇ 魅力ある学校行事の立案と計画及び実施をする。	3.6	○生徒の82%が「プリントを確実に保護者に見せた」と回答しているのに対し、「確実に見た」と回答した保護者は79%と若干の差がある。 ○学校だよりが充実していた。 ○毎月、姫城中学校だよりを読ませてもらっている。月々の行事などが分かりやすく記載されており、学校生活の状況がよく分かる。 ○シグフィーによって家庭への連絡や欠席届等、効率的に行われるようになったと思う。 ○シグフィの活用は生徒・保護者とも9割以上が「活用できた」と回答しており、家庭と学校の連携をとるためのツールが確保できていると感じた。 ○ICT化を進めている中でプリント配布は取組の足かせになっているのではないかと。諸連絡はデジタルでよいと思う。
	(2)	地域と学校の連携・協働の推進：⑰ ・生徒調査（指標3.0以上） ・保護者調査（指標3.0以上） ・教職員評価（指標3.0以上）	3.0		○ 地域のニーズに応じたボランティア活動を行うことができている。特に、姫ボラスタッフの活躍は大きいと感じる。 ○ 今後も地域の要望に応えながら、連携を図っていく。 ○ 夏の環境整備活動や門松作り、HLTの時間の地域人材の活用により、生徒が、地域の方々たとふれあう機会が得られた。 ◇ ホームページの定期的な更新と内容の充実を図る。 ◇ 地域人材の活用にも更に努める。		○地域行事やボランティアへの積極的参加について、半数以上の生徒が「できている」という評価に対し、保護者の感覚としては昨年度よりも減。職員の「参加を積極的に促したか」という設問では、昨年度より27%「できていない」とのことで、生徒の自主性に任せているのか。参加することへの意義が感じられないのか。